

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立大詫間小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究においては、授業に『話し合いの型』を導入したことで、根拠を示して考えを説明することができる児童が増え、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善を図ることができた。児童がさらに主体的な学びを進めるために、ICTを活用しながら協同的な学びの実現に向けて全職員で共通実践し確かな成果につなげたい。 ・学校行事や体験活動の中で地域や保護者と連携し、ふるさと「大詫間」を大切に思う心情を育成することができた。次年度も児童が地域の人とふれあったり、豊かな自然や文化について学んだりする中で自らが社会の一員であることを自覚できるようにし、夢や希望をもって心豊かに生きる力を育成していきたい。
2 学校教育目標	未来を切り拓き、主体的に行動する児童の育成
3 本年度の重点目標	① 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善を図る。 ② 夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする児童の育成をめざす。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目						
重点取組			具体的取組	最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○探求的な学習の中で、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する指導の充実	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童90％以上とする。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、校内研究と関連させて、話し合いの進め方を意識し、授業の中に生かす。 ・1人1台端末の効果的な活用を進める。	A	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童95％以上だった。 ・研究授業を通して、自分の考えと比較する、質問を考えながら聞く、疑問をみんなで解決するなどの高め合い、深め合う話し合い活動に全てのクラスで取り組んだ。 ・1人1台端末の効果的な活用について、校内研究や研修を通し共通理解を図ったことで指導力の向上につながった。 ・授業では、特に算数科において考えを伝え合う場面で1人1台端末を活用した。4年生以上は毎日1人1台端末を持ち帰り、家庭学習においても活用した。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校生活が楽しい・友達やまわりの人に優しくできる」と回答した児童85％以上とする。	・人権集会等で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。 ・異学年交流の充実。地域や他校との交流体験・交流学習を進める。 ・「ふれあい道徳」を年1回確実実施する。	B	・12月に実施したアンケートの結果、「学校は楽しい」と答えた児童は83％で、目標値を2ポイント下回った。気になる児童にはチームで支援を続けていく。「友達や周りの人に優しくしている」と答えた児童は98％であり、ほとんどの児童が思いやりや気持ちをもつて人と関わることができている。児童が書いた「こころの葉」カードは、掲示をしたり、職員が毎週校内放送で紹介したりした。また、縦割り班活動を通して、他者への思いやりを育んだり、社会性を育んだりすることができた。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 ・各担任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員95％以上とする。	・毎月、月初め「いじめ・いのちを考える日」の取組として「心のカード」を書く。 ・「いじめアンケート」を年2回実施。全職員で情報共有を図る。 ・いじめの対応についての研修・会議を年2回以上行う。 ・各学期に「教育相談週間」を設け、きめ細かな児童観察と支援を実施する。	A	・いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した教員は100％であった。保護者も肯定的な回答が100％であった。2学期の教育相談週間も予定通り実施し子どもの悩みに対して早期対応を行うことができた。今後も、心のカードや教育相談週間、子ども支援会議などを通して、教員間で情報共有を行っていく。また、きめ細やかな児童観察と支援に努めている。	・生徒指導担当 ・教育相談担当 ・各担任
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85％以上	・キャリアパスポートを効果的に活用し、自己肯定感を育むようにする。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童86％、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童96％と目標を達成していた。否定的な回答の児童に配慮し、支援や指導を行っていた。 ・キャリアパスポートを活用し、行事や学期の振り返りを行った。自己評価と他者(教師や友達)評価によって、自己肯定感を高め、将来の夢への向けて意欲付けにつながった。	・キャリア教育担当 ・教務主任 ・各担任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「健康に十分な睡眠は大切であると考え、決められた時刻に就寝できている」と回答した児童85％以上とする。	・月に1回保健だよりを発行し、規則正しい生活について啓発し家庭との連携を図る。 ・交通安全教室を4月に実施し、道路の歩行練習や自転車の乗り方についての講習会を行う。 ・全校での集団下校を2週間に1度のペースで行い、安全な下校の意識を高める。 ・ヘルメット着用率を高めるために、家庭への啓発を交通安全教室、終業式、懇談会で行う。	B	・月に1回保健だよりを発行し、規則正しい生活について啓発することができた。「早寝早起きができている」と回答した児童81％であり、昨年よりも増加傾向にある。今後も家庭との連携を続け、良い生活習慣の定着を図っていく。 ・12月のアンケート「安全な生活について考え、行動できている」では、肯定的な回答が96％であった。継続して安全指導に努めている。 ・地震や火災避難訓練実施後に「安全だより」を発行し、児童や職員の防災への意識向上を図ることができた。「安全な学校づくりに取り組んでいる」と肯定的に回答した保護者は、100％であった。今後も安全指導の充実を目指したい。	・生徒指導主任 ・保健担当 ・安全教育担当 ・各担任
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・資料のデジタル化を確立。ICT活用による校務の効率化を推進する。 ・定時退勤日の設定(金曜日)、出退勤PC横に、平常日の退勤目標時刻を個人が予告・表示し、意識化を図る。	B	・12月アンケートでは、業務改善を意識していると回答した教員が100％であった。時間外在校等時間月45時間以内は、遵守できているが、行事等の関係で月によっては、30時間を越える職員もいる。業務内容の精選や効率化については、さらに推進していく必要がある。引き続き、教員のタイムマネジメント力の向上を図ってきたい。	・管理職
	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性や合理的配慮への意識が向上した教員90％以上とする。	・毎月の子ども支援全体会議の場を活用し、特別支援教育に関する情報共有や研修等を実施する。 ・個別の指導計画や個別的教育支援計画に基づいた支援方針や配慮事項の共有を図る。	B	・「特別支援に関する専門性や合理的配慮への意識が向上した」と回答した職員は、100％であった。保護者についても「個々の子どもの実態に応じて細やかな支援や指導を行っている」と肯定的な回答が100％であった。困難を抱える児童については、今後も保護者や職員が情報共有を図り、支援を続けていく。また、特別支援教育に関する研修を積み重ね、更に専門性を高めていきたい。	・特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	
○地域・家庭と共に歩む学校づくり	○市民性を育む教育の推進 ○地域や保護者との連携	○「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」「地域の良さを知らることができた」と回答した児童85％以上とする。	・総合的な学習の時間や生活科等と関連させ地域の教育力を生かした学習を仕組む。 ・体験活動等、地域の人と触れ合う場を設定し、郷土を愛する心を育む。	A	・「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」と回答した児童88％。「地域の良さを知らることができた」児童95％と、どちらも目標を達成できた。年間を通して、全校や学年毎で地域の方との交流ができた。また、大野島小学校との交流も実施することができた。今度も持続可能な内容での取り組みを継続していきたい。	・総合的な学習の時間担当 ・生活科担当
	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育					

5 総合評価・ 次年度への展望	・校内研究においては、話し合い活動で相手意識をもって考えを伝えたり、聞いたりすることが大事だと考える児童が増え、主体的・対話的な学びの実現へ向けた授業の質的改善を図ることができた。児童が学習の中で考えをより深めるために、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。 ・地域の方々や関わる体験活動や学校行事を通して、児童がふるさと「大詫間」を愛する心を育むことができた。150周年を迎える次年度は、地域についての学習や行事を通して、ふるさととの良さを確かめたり、地域の一員として何ができるかを考えさせたりし、夢や目標をもって心豊かに生きる力を育成していきたい。
--------------------	---